かるちゃ～ナビ

ザ・見遊（みゅ～）じあむ

19

国立国際美術館（大阪市北区）

世界でも珍しい地下美術館

国立国際美術館は1977年に、吹田市で開催された万国博覧会のおり、世界各国から集められた美術品を展覧するために万博記念公園内に開館しました。しかし、老朽化のため2004年1月に閉館し、大阪市北区の中之島にその年の秋からリニューアルオープンしました。隣は大阪市立科学館です。

主に世界の現代美術を中心にした企画展を催していますが、美術館としてだけでなく、市民に親しまれる公共建築として機能しています。

地上1階・地下3階の建物で、展示室がすべて地下にあるという珍しい美術館です。地上部分のエントランスには巨大な鉄骨のオブジェがあります。一見「ウサギの耳」のようですが、竹の生命力と現代美術の発展・成長をイメージしたものといわれている特徴的なデザインです。

地下1階は情報コーナー、ミュージアムショップ、レストラン、地下2階が常設展と企画展のフロア。地下3階は特定の美術品を展示する特別展になっています。ちなみに床は外国産の松の木を使用し、靴音も吸収します。4月7日から「ベルギー王立美術館展」を開催中です。

美術館のエントランスはウサギの耳を思わせる鉄骨のオブジェ

ミュージアムメモ

▶所在地／〒530-0005大阪市北区中之島4-2-55　交通／大阪市地下鉄四つ橋線「肥後橋駅」2番出口から徒歩10分、またはJR大阪環状線「福島駅」JR東西線「新福島駅」2号出口から南へ徒歩10分▶入館料／（常設展）一般420円、大学生130円、高校生70円、小・中学生、満65歳以上、心身に障害のある方と付添者1名無料▶開館時間／10時～17時▶休館日／月曜日▶問い合わせ／06－6242－1170

このシネマがえいが

「あかね空」

豆腐作りを通した人情時代劇の傑作

原作は、山本一力の直木賞受賞作『あかね空』。

京都で豆腐作りの修行をして江戸にでてきた永吉。江戸の町でオロオロしていた永吉に声をかけたのが江戸っ子娘のおふみ。2人の出会いから、長屋での豆腐稼業。「京や」の看板をかかげて、江戸になじみが薄い京の豆腐を、2人は明るく一生懸命に働き、次第に客も増えていきます。二十数年が過ぎ、2人には3人の子が。順調に見えた家業でしたが…。

いまNHK大河ドラマ『風林火山』で主人公を演じている内野聖陽、『電車男』『嫌われ松子の一生』の中谷美紀の2人が、豆腐屋の夫婦を熱演しています。江戸時代の豆腐づくりの工程や道具などもよく描写されて、長屋の人情や江戸の職人気質もよくでて、夫婦や家族の絆もじっくりと見せてくれます。

とくに、内野聖陽は2役で、一方の賭場の親分役はアウトローの凄みと怪異な風体で、豆腐職人とはまったく違った役作りに感心します。また、冒頭にでてくる永代橋のシーンは浮世絵などで描かれた永大橋をCGでよみがえらせたものです。

タイトルの「あかね空」は、夜の闇があかね色の朝日で染められていうように、つらいことを乗り越えたあとには願いや夢がかなうという思いがこめられています。

摂津 河内 和泉 おおさか三国誌

19

（大阪市北区）

大阪造幣局と「桜の通り抜け」

今年の桜前線は迷走しました。「今年の桜は早い」と予想したものの、実際はいつもどおりの開花。おかげで、例年なら4月中旬からと決まっていた「造幣局の桜の通り抜け」も早合点で4月5日から11日までと設定。しかし、行ってみたら、ほとんどの桜は開花していませんでした。

この「桜の通り抜け」で知られる大阪市北区の桜ノ宮にある大阪造幣局は、近代国家としての貨幣制度の確立を図るため、明治新政府によって明治4年4月4日に創設され、当時としては画期的な洋式設備によって貨幣の製造を開始しました。その後、造幣局は、貨幣の製造のほか、時代の要請にこたえて勲章・褒章及び金属工芸品等の製造、地金・鉱物の分析及び試験、貴金属地金の精製、貴金属製品の品位証明（ホールマーク）などの事業も行っています。2003年4月1日から、独立行政法人造幣局となりました。

「桜の通り抜け」の歴史は古く、1883年（明治16年）、当時の造幣局長が「職員だけで桜を楽しむのでなく、市民にも開放しよう」と、道を一方通行にして始めたのが最初といわれています。今年で124年、124種370本の桜があります。ちなみに、今年の桜「松月」は、東京の荒川堤にあった名桜のひとつで、優雅で華麗な花を咲かせる桜です。花の色は淡紅色、中心部は白色を帯びており、花は垂下に咲き、花弁は25枚程度です。

ほとんど開花していない中での「桜の通り抜け」でしたが、早咲きの満開の桜もありました

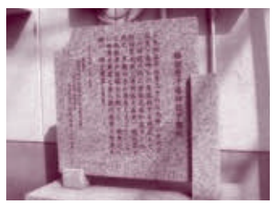
大阪の戦跡を歩く

第18歩

模擬原子爆弾投下跡地の碑

（大阪市東住吉区）

その名は「パンプキン爆弾」



建設のいきさつを刻んだ石碑

1945年7月26日午前9時26分、大阪市東住吉区の田辺の上空に模擬原子爆弾が投下され空中爆発しました。広島に原子爆弾が投下されるわずか10日前のことです。死者7人、重軽傷者73人、消失倒壊家屋485戸、と記録されています。近くにあった田辺小学校は屋根瓦も窓も吹き飛んだといいます。大阪以外でも、その前後に全国各地で50発が投下されました。本物の原爆使用の前の実習訓練としてアメリカが行ったのです。模擬爆弾は重量5トン、そのカボチャ形から「パンプキン爆弾」と呼ばれていました。

2001年3月、田辺小学校の道路を隔てた向い側のマンションの横に、遺族の人たちの努力で、犠牲者の慰霊碑として「模擬原子爆弾投下跡地」の碑が建立されました。毎年7月26日に慰霊祭が行われています。

いまも心に響く名詩・名歌・名語録

花の色は／うつりにけりないたずらに／わが身世にふるながめせしまに

小野小町

（通訳・恋の悩みにふけっている間に、何もえるところもないまま年をとってしまい、私の容姿もあせてしまった。まるで長雨のあとの桜のように）。小野小町（おののこまち）809年頃～901年頃まで。平安前期の歌人。業平と同様に、六歌仙、三十六歌仙のひとり。絶世の美女として伝えられ、全国各地の美人をさして「○○小町」の名を残しています。秋田県湯沢市小野をはじめ各地に生誕伝説があります。

世の中に／たえて桜のなかりせば／春の心はのどけからまし

在原業平

（通訳・この世の中にまったく桜というものがなかったならば、春を過ごす心はのどかであったのに）。在原業平（ありわらの なりひら）。825年～880年。平安時代初期の歌人。六歌仙、三十六歌仙のひとり。美男として後世まで伝わり、「伊勢物語」の主人公といわれています。「古今和歌集」には30首が入っています。表記の和歌はその中の一首。この和歌は現在の枚方にあった別荘「なぎさの院」で、桜の木の下での酒宴で詠んだものとされています。